

# TOEIC<sup>®</sup>スコアで測定される英語運用能力と 発音テストおよびクローズテストとの 相関関係について\*

中 郷 慶

Correlation between the TOEIC<sup>®</sup> Test,  
Pronunciation Test, and the Cloze Test

Kay Nakago

## 1. はじめに

愛知淑徳大学文化創造学部は2000年4月の開設以来、学生への入学時のTOEIC受験を課し、英語の授業については習熟度別クラスの編成を行い、TOEICスコアを尺度とした英語教育を行ってきた<sup>1</sup>。文化創造学部でのTOEIC導入を皮切りに、本学では2002年度から、全学生が年2回、受験料大学負担でTOEIC IPを受験できるシステムが構築された<sup>2</sup>。外国語教育センターとの連携のもと、このシステムの運用と全学の英語教育に携わっているのが全学英語教育運営委員会である。

全学英語教育を検討するために「全学英語検討委員会」が設置されたのは1999年である。この委員会は2003年に「全学英語教育運営委員会」と改称され、全学共通英語科目「言語活用科目（英語）」のカリキュラム策定や具体的な授業内容の検討を行った（全学共通英語科目の開設は2004年度）。全学英語教育運営委員会は、2003年にテーマ「独自データベース(DB)を活用した全学英語教育評価測定チュートリアルシステムの構築」により、文部科学省から「平成15年度大学教育高度化推進特別経費 教育・学習方法の改善」の補助金を得た。また、「平成17年度現代的ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）の「仕事で英語が使える日本人の育成」に「多文化共生を目指した発信型全学英語教育一モジュール化された体系的カリキュラムの開発」というテーマで申請を行い、選定された。筆者は、この委員会のメンバーとして、いずれのプロジェクトにも深く関わってきた。

本学におけるさまざまな英語教育プログラムを機能的に発展させていくためには、各プログラムや教育内容を正しく評価していくことが不可欠である。樗木（2004）は、WWWブラウザ上で稼動するマルチメディア型の英語学習システムALC NetAcademy（株式会社アルク）が本学に導入されてから全学英語教育の共通教材として利用されるまでの経緯を述べ、この教材を利用した学生がどのようにTOEICスコアを伸ばしているかを検証している。

学内で実施するTOEIC IPテストに際しては、これまで解答用紙（マークシート）を利用して、本学の英語教育の向上に役立てるためのアンケート調査を行ってきた。これは、本学の英語教育に対する学生の満足度や、カリキュラムに対する要望などを調査する有効な手段となっている。筆者は、2006年1月28日に学内で実施したTOEIC IPテストにおけるアンケートデータを整理・分析し、愛知淑徳大学全学英語教育運営委員会（編）（2006: 46-51）にまとめた<sup>3</sup>。また、2000年度の文化創造学部への入学生406名を調査対象とした研究で、中郷・大野(2002)はTOEICスコアに基づき、以下の4つの仮定が正しいことを証明した。

- (1) a. 英語コミュニケーション能力は英語学習時間に依存する。
- b. 英語が好きだという学習者は、高い英語コミュニケーション能力を示す。
- c. 中学校・高等学校で好きな英語教師がいたことが、英語コミュニケーション能力に影響を与える。
- d. 明確な進路目標を持っている、特に将来英語を使った職に就きたいと考えている学生は、高い英語コミュニケーション能力を示す。

いわゆる大学全入時代を迎え、近年、大学入学試験（英語）のあり方についての議論が盛んに行われているように思われる。本論文では、愛知淑徳大学で実施しているTOEIC IPテストのデータをもとに、学生の英語力を測定するテストの妥当性を検討し、大学1年生のTOEICスコアと発音テストと点数の間にはかなり相関関係があるのに対して、TOEICスコアとクローズテスト(cloze test)の間には、あまり相関関係がないことを主張する。

## 2. 研究の目的とデータの収集方法

この研究の目的は、TOEICスコアで測定される英語運用力と発音テストの間に相関関係はあるのかどうかを検証することと、クローズテストによって、学生の英語力が正しく測定されるかどうかを検証することである。

クローズテストは、そもそも、ネイティブスピーカーの読書教材の難易度を測定する目的で開発されたテストで、統合的な言語能力を測るテストとして使用される。‘Cloze’という術語は、ゲシュタルト心理学の‘closure’に由来し、‘closure’の動詞‘close’をTaylor (1953)が‘cloze’と造語したものである。クローズテストでは、ある文章に使われているすべての単語のうち、数パーセントの単語を任意に消去したり、自動的に何番目かに相当する単語（通常は6-7番目の単語）を消去したりして、ネイティブスピーカーの被験者に前後の文脈をヒントに、原文にあった単語を再生させるという手法をとる<sup>4</sup>。クローズテストは、外国人の英語の総合能力を引き出す手段として、きわめて有効であるというデータが報告されてきた(Darnell 1968, Stubbs & Tucker 1974)。

本研究の被験者は、文化創造学部2001年度入学生全員である。2001年4月には、文化創造学部の3専攻に合計337名の学生が入学した<sup>5</sup>。前述したように、文化創造学部の入学生は、

入学時に全員がTOEIC IPテストを受験する。TOEIC IPテストは2001年4月2日に実施され、335名が受験した（受験率99.4%）。このTOEICスコアとの相関関係を調査するために、1年生の前期の必修の英語授業（「TOEICトレーニングⅠ」）を利用して、2001年7月4日から16日にわたり、独自に編集したテスト（以下「ASテスト」）を2回にわたり実施し、のべ609人が受験した<sup>6</sup>。各ASテストの内容は以下の通りである。具体的な設問については、資料1～3を参照のこと。

(2) a. 第1回 AS テスト (25 分)

発音テスト：

2001 年度大学入試センター試験 本試験「英語」 第1問

2001 年度大学入試センター試験 追試験「英語」 第1問

クローズテスト

愛知淑徳短期大学 1998 年度一般入学試験「英語」 問題Ⅱ

b. 第2回 AS テスト (25 分)

発音テスト：

2000 年度大学入試センター試験 本試験「英語」 第1問

2000 年度大学入試センター試験 追試験「英語」 第1問

クローズテスト： 愛知淑徳短期大学 1997 年度一般入学試験「英語」 問題Ⅱ

各問題の配点は以下の通りである。発音テストの配点は、大学入試センターから発表されたものに従った。詳細は資料4を参照のこと。

	発音テスト	クローズテスト
第1回 AS テスト	40 点 2 点×8, 3 点×8	50 点 2 点×25
第2回 AS テスト	48 点 3 点×16	40 点 2 点×20

表1 AS テストの配点

調査には、以下の機器およびソフトウェアを使用した<sup>7</sup>。

- (3) a. マークシート「幅広カード 103」（株式会社教育ソフトウェア）
- b. 光学式マーク読み取り装置(OMR) SR410（株式会社セコニック）
- c. パーソナルコンピュータ iMac (333 MHz Rev. D)（アップルコンピュータ）
- d. 読み取り・採点・集計ソフトウェア「SS くん (Macintosh 版)」

## 3. データの分析

608枚のマークシートをOMRとソフトウェア「SSくん (Macintosh版)」を使用し、パーソナルコンピュータで読み取りと採点を行った。その結果をまとめたのが表2である。

	満点	正答率 (%)			平均点	標準偏差	最低	最高	受験者数
		発音テスト		クローズテスト					
		本試験	追試験						
第1回 ASテスト	90	48.8	71.2	48.1	48.0	10.9	14	73	304
第2回 ASテスト	88	56.3	54.2	34.9	43.8	11.0	10	69	304

表2 ASテストの採点結果

次に、「SSくん」のデータを書き出したものをデータベースソフト「FileMaker Pro」で読み込み、「FileMaker Pro」のルックアップ機能を利用し、TOEIC IPテストのスコアデータと統合した。その中から、TOEIC IPテストを受験し、かつ、ASテストを2回とも受験した学生296名を抽出し、今回の分析の対象とした<sup>8</sup>。

この296名の学生の発音テストの合計点 (88点満点) とTOEIC IPスコアの関係と回帰分析の結果を示したものが表3であり、クローズテストの合計点 (90点満点) とTOEIC IPテストの関係と回帰分析の結果を示したのが表4である<sup>9</sup>。

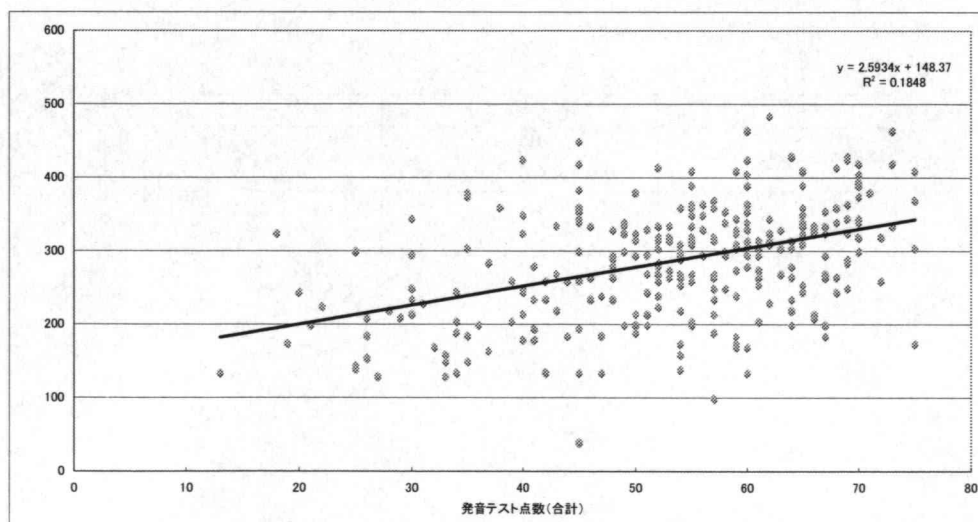


表3 発音テストと TOEIC スコアの関係 (散布図)

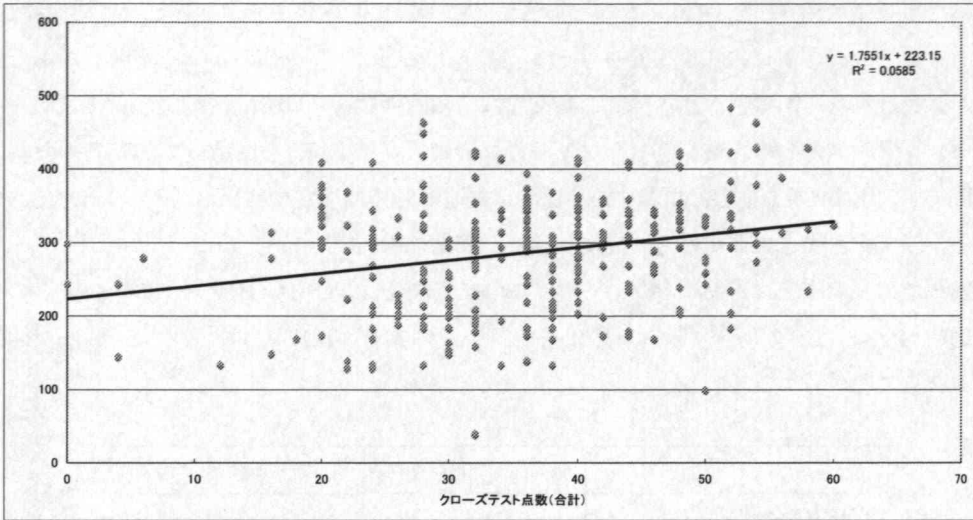


表4 クローズテストと TOEIC スコアの関係 (散布図)

2変数X, Yがn組あった場合の相関関係を調べるためには、一般にピアソン積率相関係数が用いられる。ピアソン積率相関係数rは、「変数Xと変数Yの共分散」と「それぞれの変数の標準偏差」から(4)の数式のように求められる。

$$(4) \quad r = \frac{\text{変数}X\text{と変数}Y\text{の共分散}}{\text{変数}X\text{の標準偏差} \times \text{変数}Y\text{の標準偏差}} = \frac{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})(Y_i - \bar{Y})}{\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2} \sqrt{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}}$$

$$\text{ただし、} \bar{X} = \frac{\sum_{i=1}^n X_i}{n}, \quad \bar{Y} = \frac{\sum_{i=1}^n Y_i}{n}$$

相関係数rは2つの変数の関係の方向（正か負）と強さ（絶対値）を示すもので、 $-1 \leq r \leq 1$ の範囲で示され、その解釈は通常、表5のように行われている<sup>10</sup>。

相関係数 r の絶対値	解釈
0.0～0.2	ほとんど相関がない
0.2～0.4	弱い相関がある
0.4～0.7	中程度の相関がある
0.7～1.0	強い相関がある

表5 相関係数 r の解釈

求めた相関係数 $r$ が有意かどうかを調べる方法として、相関係数の有意性検定（無相関検定）がある。これは、本当に相関が存在するかを確かめる検定で、 $p$ 値が0.05を下回った場合、相関係数は有意であるとされる。この論文では、相関係数 $r$ の算出に、統計言語「S言語」をオープンソースとして実装し直したフリーの統計解析ソフト「R」を使用した<sup>11</sup>。参考のため、「R」での出力結果を補遺に掲載する。なお、先述の無相関検定の結果も「R」の出力に含まれる。以下、さまざまな組み合わせについて、相関係数 $r$ を示す。

表6では、発音テストおよびクローズテストの合計と、TOEIC IPテストのスコアとの相関係数 $r$ を示した。クローズテストに比べて、発音テストはTOEICスコアとより強い相関関係があることが分かる。

	発音テスト合計点	クローズテスト合計点
TOEIC 合計スコア	0.43	0.24
TOEIC Listening スコア	0.36	0.14
TOEIC Reading スコア	0.39	0.29

表6 発音テストおよびクローズテストと TOEIC スコアとの相関係数  $r$

表7からは2回のクローズテストのいずれもが、TOEICスコアとは相関関係があるとは見なされないこと、および、文法・内容がともにより平易である1回目のクローズテストとTOEICスコアの間には、ほとんど相関関係がないことが分かる。

	クローズテスト 1回目 合計点	クローズテスト 2回目 合計点
TOEIC 合計スコア	0.15	0.28
TOEIC Listening スコア	0.08	0.18
TOEIC Reading スコア	0.18	0.33

表7 2回のクローズテストと TOEIC スコアとの相関係数  $r$

1回目のクローズテストと2回目のクローズテストの間の相関係数 $r$ は表8に示したとおり、 $r=0.36$ であり、弱い相関があることが分かる。一方、発音テスト間の相関係数 $r$ は、表9および表10のとおりである。第1回の発音テストと第2回の発音テストは $r=0.61$ と中程度の相関がある。発音テスト間の相関係数 $r$ は、いずれも、クローズテスト間の相関係数 $r=0.36$ よりも高い値を示し、全く同じ形式の発音テストの間（1回目の本試験と追試験、2回目の本試験と追試験：表10では太字で表示した）における相関係数 $r$ よりも高い値を示している組み合わせもあることが分かる。

	クローズテスト1回目 合計点
クローズテスト2回目合計点	0.36

表8 クローズテスト間の相関係数  $r$

	発音テスト1回目 合計点
発音テスト2回目合計点	0.61

表9 第1回発音テストと第2回発音テストの相関係数  $r$

	発音テスト 1回目 (本試験)	発音テスト 1回目 (追試験)	発音テスト 2回目 (本試験)
発音テスト 1回目 (追試験)	0.38		
発音テスト 2回目 (本試験)	0.44	0.41	
発音テスト 2回目 (追試験)	0.38	0.47	0.44

表10 各発音テストの点数間の相関係数  $r$

そもそも、TOEICスコアが学生の英語力を正しく測定できているかどうかという反論があるかもしれない。この論文では、TOEICスコアの有意性については議論しないが、次のデータはTOEICスコアの有意性を支持する一つの根拠となるかもしれない。文化創造学部では、1年生に対して入学時にTOEIC IPテストの受験を課すとともに、1年生終了時にも受験を義務づけ、そのスコアに基づき、2年次の英語クラスの習熟度別クラス編成を行っている。表9は2001年4月（入学時）と2002年2月（1年生終了時）の2回のTOEIC IPテスト両方を受験した307名の学生のスコア散布図である。相関係数は、 $r=0.64$ と高い値を示す<sup>12</sup>。

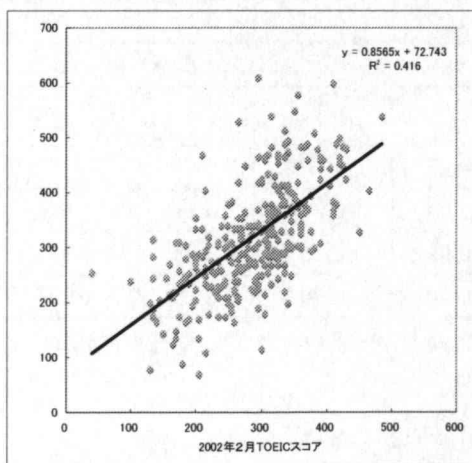


表11 入学時と1年終了時における TOEIC スコアの関係（散布図）

## 4. 結論と今後の課題

この論文では、大学入試センター試験の発音テストがTOEIC IPテストとかなり相関関係があるということを示した。また、発音テストに比べて、クローズテストはそれほど強い相関関係がないことも示した。TOEIC IPスコアが学生の英語力を正しく測定しているという前提が正しければ、この結果は、今後のテストの在り方を考察する論拠となる。ここでの主張を裏付けるために、今後は、さまざまなタイプのクローズテストでの検証を進める必要があるだろう。

文化創造学部では、専攻ごとにTOEICスコアに基づいて、下位1/3、中位1/3、上位1/3（それぞれ、初級、中級、上級クラスと呼ぶことにする）の習熟度クラスを編成している。この論文では、296名の学生を母集団としてデータ分析を行ったが、各専攻の習熟度別クラスに分析を行うと、状況は複雑になり、統一した説明を与えることが難しくなる。

専攻	表現文化専攻					
	初級 N=34		中級 N=26		上級 N=35	
習熟度別クラス	発音	クローズ	発音	クローズ	発音	クローズ
TOEIC 合計	0.20	0.31	0.30	-0.32	0.31	0.28
TOEIC Listening	0.20	0.14	0.16	-0.23	0.05	0.11
TOEIC Reading	0.08	0.25	0.17	-0.09	0.34	0.25
専攻	多元文化専攻					
習熟度別クラス	初級 N=35		中級 N=34		上級 N=35	
	発音	クローズ	発音	クローズ	発音	クローズ
TOEIC 合計	0.12	0.06	0.15	0.29	0.17	0.03
TOEIC Listening	0.21	-0.13	-0.05	0.30	0.04	-0.16
TOEIC Reading	-0.07	0.28	0.11	0.30	0.15	0.22
専攻	環境文化専攻					
習熟度別クラス	初級 N=33		中級 N=30		上級 N=34	
	発音	クローズ	発音	クローズ	発音	クローズ
TOEIC 合計	-0.06	0.23	0.11	0.00	0.34	0.31
TOEIC Listening	-0.09	0.15	0.23	-0.17	-0.03	0.03
TOEIC Reading	0.00	0.20	-0.15	-0.17	0.48	0.39

表12 各テスト間の相関係数  $r$  の一覧（専攻・習熟度別クラスごと）

さらに、学部全体でTOEICスコアに基づき、初級、中級、上級クラスを想定し、各テスト間の相関係数  $r$  をまとめたものが表13である。



習熟度別クラス (想定)	文化創造学部 (全体)					
	初級 N=96		中級 N=100		上級 N=100	
	発音	クローズ	発音	クローズ	発音	クローズ
TOEIC 合計	0.21	0.13	0.17	-0.01	0.18	0.05
TOEIC Listening	0.16	0.07	0.02	-0.18	0.00	-0.12
TOEIC Reading	0.15	0.13	0.12	0.20	0.24	0.20

表 13 各テスト間の相関係数  $r$  の一覧 (学部全体)

表13からは、どの習熟度別クラス (想定) においても、発音テストの得点とTOEICトータルスコアの間には、一定の相関関係がみられるものの、クローズテストの得点とTOEICスコアの間には、ほとんど相関関係がないと思われる。より詳細な分析は、別に機会に行いたい。

資料

第1問 次の問い(A~C)に答えよ。(配点 20)

A 次の問い(問1・問2)において、第一アクセント(第一強勢)の位置が、ほかの三つの場合と異なるものを、それぞれ①~④のうちから一つずつ選べ。

- 問1 1
- ① disgust    ② drama    ③ problem    ④ southern
- 問2 2
- ① balcony    ② colorful    ③ reluctant    ④ vitamin

B 次の問い(問1・問2)の各文の下線部について、発音がほかの三つと異なるものを、それぞれ①~④のうちから一つずつ選べ。

- 問1 3
- ① Are you for the new proposal or against it?  
 ② Can you ask for a menu, please?  
 ③ The Christmas gift is from Mary, not for her.  
 ④ What do you take me for?
- 問2 4
- ① No one would dream of there being such a marvelous place.  
 ② Once there lived a beautiful princess in the palace.  
 ③ The man standing over there is my father.  
 ④ There seems to be no need to worry about that.

C 次の会話の下線部(1)~(4)について、それぞれ下の問い(問1~4)に示された①~④の中で最も強調して発音されるものを一つずつ選べ。

〈状況〉 Marion, Terri, Harry の三人がパーティーで初めて会い、話をして

いる。

Marion: Oh, are you American?  
 Terri: No, I'm Canadian, but I live in Sydney.  
 Marion: How funny! (1) My sister lives in Sydney.  
 Harry: Small world! I have a cousin in Sydney, too.  
 Terri: Marion, (2) what does your sister do?  
 Marion: She's a professional athlete.  
 Harry: Really? What sport?  
 Marion: Soccer. Harry, are you interested in women's soccer?  
 Harry: Not really. I'm not a big fan of soccer.  
 Marion: Too bad. I have a spare ticket to a soccer match next week.  
 Terri: Well, (3) I like watching soccer.  
 Marion: Do you want to come?  
 Terri: Sure. I'd love to.  
 Marion: Hey, why don't we go out to dinner before the match? What do you like to eat?  
 Terri: Hmm. (4) How about Chinese food?

- 問1 5
- ① My    ② sister    ③ lives    ④ Sydney
- 問2 6
- ① does    ② your    ③ sister    ④ do
- 問3 7
- ① I    ② like    ③ watching    ④ soccer
- 問4 8
- ① How    ② about    ③ Chinese    ④ food

第1問 次の問い(A~C)に答えよ。(配点 20)

A 次の問い(問1・問2)において、第一アクセント(第一強勢)の位置が、ほかの三つの場合と異なるものを、それぞれ①~④のうちから一つずつ選べ。

- 問1 1
- ① argue    ② connect    ③ function    ④ purpose
- 問2 2
- ① continue    ② luxury    ③ manager    ④ nowadays

B 次の問い(問1・問2)の各文の下線部について、発音がほかの三つと異なるものを、それぞれ①~④のうちから一つずつ選べ。

- 問1 3
- ① Did you have a nice evening at the theater?  
 ② I guess I'll have to go home.  
 ③ I have lots of books about baseball.  
 ④ I want to have my CD back by tomorrow.
- 問2 4
- ① Come to my office at nine, not at ten.  
 ② Look at that big black dog under the tree!  
 ③ She is a genius at doing crossword puzzles.  
 ④ The girl didn't throw the ball to him, but at him.

C 次の会話の下線部(1)~(4)について、それぞれ下の問い(問1~4)に示された①~④の中で最も強調して発音されるものを一つずつ選べ。

〈状況〉 二人の旅行者がホテルのフロントで受付係に宿泊の申し込みをしようとしている。

Clerk: Good evening, sir. Good evening, madam. Do you have a room reservation?  
 Man: No, we don't.  
 Clerk: So, would you like a double room?  
 Woman: No, actually, (1) we'd like two rooms, please.  
 Clerk: (2) You mean two singles?  
 Man: Yes, that's right.  
 Clerk: OK. Please fill out these forms while I get your keys.  
*A moment later*  
 Woman: Excuse me, but is it possible to have a room with a view?  
 Clerk: Uh... yes, we happen to have two rooms facing the park.  
 Woman: Perfect! Here's my form.  
 Man: Here's mine, too.  
 Clerk: Thank you. And how do you wish to pay for the rooms?  
 Woman: (3) I think I'll pay in cash.  
 Clerk: How about you, sir?  
 Man: (4) I need to use a credit card.  
 Clerk: That'll be fine.

- 問1 5
- ① we'd    ② like    ③ two    ④ rooms
- 問2 6
- ① You    ② mean    ③ two    ④ singles
- 問3 7
- ① I    ② I'll    ③ pay    ④ cash
- 問4 8
- ① need    ② use    ③ credit    ④ card

第1問 次の問い(A~D)に答えよ。(配点 24)

A 次の問い(問1・問2)のそれぞれの単語①~④のうちから、第一アクセント(第一強勢)の位置が、ほかの三つの場合と異なるもの一つずつ選べ。

問1   
 ① enough      ② insist      ③ novel      ④ relate

問2   
 ① advice      ② conscious      ③ knowledge      ④ soldier

B 次のa~jの単語について、下線部の発音と同じものの組合せを、下の①~④のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。・

a climate      b competition      c completely  
 d frequently      e medicine      f nevertheless  
 g scenery      h shiver      i sightseeing  
 j typical

① a-h-i      ② b-h-j      ③ c-d-g  
 ④ e-h-l      ⑤ d-e-j      ⑥ e-f-g

C 次の会話について、下の問い(問1)に答えよ。

《状況》風邪をひいているSimonが2回目の診察を受けている。  
 Doctor: How are you feeling, Simon?  
 Simon: My temperature's gone down and I feel a little better, but now  
 (1) I've got a cough.  
 Doctor: Well, take some cough medicine and try to get some rest.  
 Simon: OK, I will.

問1 下線部(1)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① I've      ② got      ③ a      ④ cough

D 次の会話について、下の問い(問1~3)に答えよ。

《状況》Jeffの髪について友達と話している。  
 A: Have you seen Jeff recently?  
 B: No. Has he changed his hair again?  
 A: He sure has. This time, (1) the trendy guy dyed it.  
 B: Wow! It must look really great. What color is it?  
 A: You won't believe it. I (2) can hardly believe it myself.  
 B: Why? Is it that different?  
 A: I'll say! It's black and white. (3) He looks like a panda.

問1 下線部(1)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① trendy      ② guy      ③ dyed      ④ it

問2 下線部(2)と同じように発音されるcanを含む文はどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① He says he can help me with my homework.  
 ② I put the money in the can over there two days ago.  
 ③ Is there a possibility that he can?  
 ④ Please let me know when you can, if you don't mind.

問3 下線部(3)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① He      ② looks      ③ like      ④ panda

第1問 次の問い(A~D)に答えよ。(配点 24)

A 次の問い(問1・問2)のそれぞれの単語①~④のうちから、第一アクセント(第一強勢)の位置が、ほかの三つの場合と異なるもの一つずつ選べ。

問1   
 ① ceiling      ② hardly      ③ journey      ④ percent

問2   
 ① conquer      ② explode      ③ patient      ④ statue

B 次のa~jの単語について、下線部の発音と同じものの組合せを、下の①~④のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。・

a behavior      b blanket      c bother  
 d celebration      e cotton      f discovery  
 g frame      h scratch      i swallow  
 j tongue

① a-d-g      ② b-e-h      ③ e-e-i  
 ④ e-e-j      ⑤ d-g-i      ⑥ f-i-j

C 次の会話について、下の問い(問1・問2)に答えよ。

《状況》Johnはお茶を飲もうとしたが、残っていないことに気づく。  
 John: Hey, what happened to the tea? I thought (1) that there was some left.  
 Fred: Don't look at me! I didn't drink any.  
 John: That's strange. I wonder who drank it then.  
 Fred: (2) Why don't you ask Mary?

問1 下線部(1)と同じように発音されるthatを含む文はどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① That dog of yours is very cute.  
 ② That's my pen, so give it to me.  
 ③ The house that I saw there is lovely.  
 ④ The man lives in that little old town.

問2 下線部(2)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① Why      ② don't      ③ ask      ④ Mary

D 次の会話について、下の問い(問1・問2)に答えよ。

《状況》空港で搭乗手続き中、乗客名簿に自分の名前がないと君われる。  
 A: I'm sorry, but your name is not on the list.  
 B: But I confirmed my flight two days ago. I have to be in Tokyo by tomorrow. Please check again.  
 A: Oh, my! I'm so sorry, ma'am. (1) We do have your name on the list. There was a slight misspelling.  
 B: Good. That's a relief. You really had me scared there for a moment.  
 A: Here is your boarding pass. (2) Please go to Gate 15. Again, sorry for the mistake.  
 B: Don't worry about it. I'm just glad it worked out OK.

問1 下線部(1)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① do      ② have      ③ name      ④ list

問2 下線部(2)で最も強調して発音されるものはどれか。次の①~④のうちから一つ選べ。

① Please      ② go      ③ Gate      ④ 15

II. 本文中の空欄 26 ~ 50 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ考えられた(ア)~(エ)の中から選べ。

Mr. Rush was the fastest thing on two feet. He used to rush here and there, and there and here, and back again, all the time. And, of course, he was always in such a rush 26 he never ever finished anything properly. One morning, he 27 up with a start. He'd only had time for 28 hours' sleep because he had been rushing about for 29 long the day before. "Oh, dear," he cried, leaping 30 of bed, "I'm late!" And he rushed into his 31 and washed up (not very well, as he was 32 such a hurry), and brushed one tooth, and rushed 33 —three at a time. He had a boiled 34, and toast, and a cup of tea for breakfast. 35 boiled the egg for five seconds, and it tasted 36. He toasted the bread for only one second, so 37 wasn't brown at all. And, as he couldn't bear 38 wait for the kettle to boil, he made his 39 with cold water. Ugh! What a horrible breakfast. And, 40 course, he was in such a rush he only 41 half of it. Rush. Rush. Rush. Silly fellow! After 42 half-a-breakfast, he rushed off again. Out of his front 43 (leaving it open), down his garden path, out of his garden gate (leaving it open, too), and off down 44 lane. He passed Mr. Happy. "Good morning, Mr. Rush," 45 Mr. Happy. "Where are you off to?" "Can't stop," 46 Mr. Rush. "I'm in much too much of a 47 I can see that," thought Mr. Happy to himself 48 he watched Mr. Rush disappear into the distance. "I 49 where he's going?" Where Mr. Rush was going was 50. Fast! As usual.

- 26 (ア) as (イ) that (ウ) if (エ) which
- 27 (ア) woke (イ) waked (ウ) awoke (エ) got
- 28 (ア) twelve (イ) three (ウ) long (エ) many
- 29 (ア) much (イ) such (ウ) so (エ) very
- 30 (ア) off (イ) up (ウ) quickly (エ) out
- 31 (ア) basin (イ) bathroom (ウ) tub (エ) study
- 32 (ア) always (イ) with (ウ) in (エ) too
- 33 (ア) downstairs (イ) downwards (ウ) about (エ) around
- 34 (ア) pan (イ) water (ウ) milk (エ) egg
- 35 (ア) After (イ) Then (ウ) She (エ) He
- 36 (ア) good (イ) awful (ウ) better (エ) best
- 37 (ア) one (イ) half (ウ) it (エ) this
- 38 (ア) to (イ) it (ウ) for (エ) while
- 39 (ア) bath (イ) egg (ウ) tea (エ) washing
- 40 (ア) off (イ) of (ウ) in (エ) during
- 41 (ア) ate (イ) eaten (ウ) took (エ) taken
- 42 (ア) less (イ) his (ウ) doing (エ) eaten
- 43 (ア) garden (イ) yard (ウ) gate (エ) door
- 44 (ア) a (イ) the (ウ) to (エ) his
- 45 (ア) called (イ) answered (ウ) talked (エ) told
- 46 (ア) to (イ) told (ウ) cried (エ) spoke
- 47 (ア) hurry (イ) busy (ウ) rushing (エ) speed
- 48 (ア) so (イ) since (ウ) as (エ) where
- 49 (ア) asked (イ) know (ウ) guess (エ) wonder
- 50 (ア) direct (イ) friends (ウ) something (エ) nowhere

II. 本文中の空欄 31 ~ 50 に入れるのに最も適切なものを、それぞれ考え与えられた(ア)~(ロ)の中から選べ。

It seems that people have always wondered about whether language is instinctive, something that is as natural to humans as walking and smiling. They have also wondered too whether, even without experiencing language, children would be able to produce it on their own. Some have even thought that children who had not been exposed to speech, would speak in the original language of humankind. Montaigne, a brilliant thinker in the sixteenth century, believed this too, and he also believed that many animals have language. People are still very much interested in these and in other related questions as well, as whether there is an age beyond which a person would be unable to learn language.

According to legend, some experiments have already been 31 out to determine what language, if any, children would 32 if they had never been exposed to speech. The 33 Greek historian Herodotus wrote of a story which he 34 from priests in Egypt about one of their kings, Psamitik I, 35 reigned in the seventh century B.C. According to 36 tale (which was already more than 100 years old 37 Herodotus heard it), Psamitik gave two infants to a 38 with the instruction that they be raised without anyone 39 in their presence. The king assumed that, without outside 40, the children would eventually speak the original human language. 41 children's first word (and perhaps only word!) was reported 42 the shepherd to have been *becos*, or something sounding 43 it. After inquiring of his learned advisers as to 44 language that word might be in, the king was 45 that such sounds meant 'bread' in the Phrygian language. 46 language then spoken in what is now central Turkey. 47 felt that he had his answer regarding original language. 48 skeptics have suggested that the sounds could have come 49 the children imitating sheep or goats. Likewise it is 50 that James V of Scotland also conducted such an experiment with infants.

【注】 Montaigne モンテーニュ(1533-92): フランスの思想家・随筆家・モラリスト。  
Herodotus ヘロドトス(484?-425? BC): キリシヤの歴史家、「歴史の父」と称される。  
Psamitik I アサメティコス1世(663-609 BC): 古代エジプト第26王朝初代の王。  
the Phrygian language フリギア語。【フリギアは小アジア中部にあった古王国】  
James V ジェームズ4世(1473-1513): スコットランド王。

- 31 (ア) made (イ) carried (ウ) come (ロ) done
- 32 (ア) develop (イ) listen (ウ) obtain (ロ) earn
- 33 (ア) older (イ) ancient (ウ) old (ロ) antique
- 34 (ア) told (イ) listened (ウ) heard (ロ) said
- 35 (ア) one (イ) which (ウ) that (ロ) who
- 36 (ア) certain (イ) the (ウ) any (ロ) its
- 37 (ア) if (イ) how (ウ) when (ロ) after
- 38 (ア) shepherd (イ) god (ウ) Greek (ロ) king
- 39 (ア) speech (イ) spoke (ウ) spoken (ロ) speaking
- 40 (ア) existence (イ) world (ウ) shock (ロ) interference
- 41 (ア) Once (イ) The (ウ) Another (ロ) All
- 42 (ア) with (イ) from (ウ) by (ロ) to
- 43 (ア) like (イ) similar (ウ) exactly (ロ) resemble
- 44 (ア) from (イ) Latin (ウ) what (ロ) where
- 45 (ア) asked (イ) told (ウ) thought (ロ) known
- 46 (ア) a (イ) difficult (ウ) basic (ロ) root
- 47 (ア) King (イ) Psamitik (ウ) Herodotus (ロ) Shepherd
- 48 (ア) after (イ) because (ウ) since (ロ) although
- 49 (ア) at (イ) from (ウ) to (ロ) before
- 50 (ア) good (イ) important (ウ) said (ロ) imitated

資料3 ASテストに使用したクローズテスト  
【第1回ASテスト(左)と第2回ASテスト(右)】

		問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点	
第1回 AS テスト	2001 年度本試験	第1問 (20)	A	問1	1	①	2
				問2	2	②	2
			B	問1	3	②	2
				問2	4	①	2
			C	問1	5	②	3
				問2	6	④	3
				問3	7	①	3
				問4	8	③	3
	2001 年度追試験	第1問 (20)	A	問1	1	②	2
				問2	2	①	2
			B	問1	3	②	2
				問2	4	④	2
			C	問1	5	③	3
				問2	6	④	3
第2回 AS テスト	2000 年度本試験	第1問 (24)	A	問1	1	③	3
				問2	2	①	3
			B		3-4	②-③	6 (各3)
			C	問1	5	④	3
				問1	6	③	3
			D	問2	7	①	3
				問3	8	④	3
			2000 年度追試験	第1問 (24)	A	問1	1
	問2	2				②	3
	B				3-4	①-③	6 (各3)
	C	問1			5	①	3
		問1			6	④	3
	D	問2			7	①	3
		問3	8	④	3		

資料4 発音テストの正解と配点

第1回 AS テスト (2点×25)	問題番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
	正解	イ	ア	イ	ウ	エ	イ	ウ	ア	エ	エ	イ	ウ	ア	ウ	イ	
	問題番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50						
	正解	ア	イ	エ	イ	ア	ウ	ア	ウ	ア	エ						
第2回 AS テスト (2点×20)	問題番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
	正解	イ	ウ	イ	ウ	エ	イ	ウ	ア	エ	エ	イ	ウ	ア	ウ	イ	
	問題番号	46	47	48	49	50											
	正解	ア	イ	エ	イ	ウ											

資料5 クローズテストの正解と配点

## 補遺

## 「R」の出力結果

	発音テスト合計点	クローズテスト合計点
TOEIC 合計スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 8.1647, df = 294, p-value = 9.548e-15 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.3321991 0.5185122 sample estimates: cor 0.4299215	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 4.2753, df = 294, p-value = 2.582e-05 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.1315591 0.3463856 sample estimates: cor 0.241935
TOEIC Listening スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 6.5146, df = 294, p-value = 3.154e-10 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.2513417 0.4509158 sample estimates: cor 0.3551692	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 2.511, df = 294, p-value = 0.01257 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.03141470 0.25469738 sample estimates: cor 0.1449003
TOEIC Reading スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 7.3523, df = 294, p-value = 1.945e-12 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.2932618 0.4862489 sample estimates: cor 0.3940906	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 5.14, df = 294, p-value = 5.018e-07 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.1790031 0.3884364 sample estimates: cor 0.2871477

表6 (詳細) 発音テストおよびクローズテストと TOEIC スコアとの相関係数  $r$ 

	クローズテスト 1回目 合計点	クローズテスト 2回目 合計点
TOEIC 合計スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 2.5662, df = 294, p-value = 0.01078 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.03459319 0.25767050 sample estimates: cor 0.1480140	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 5.0445, df = 294, p-value = 7.974e-07 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.1738284 0.3838919 sample estimates: cor 0.2822397
TOEIC Listening スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 1.4465, df = 294, p-value = 0.1491 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: -0.03022899 0.19618952 sample estimates: cor 0.08406524	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 3.0648, df = 294, p-value = 0.002380 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.06321621 0.28425519 sample estimates: cor 0.1759527
TOEIC Reading スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 3.1579, df = 294, p-value = 0.001754 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.0685370 0.2891599 sample estimates: cor 0.1811263	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 5.9282, df = 294, p-value = 8.57e-09 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.2209905 0.4249372 sample estimates: cor 0.3267626

表7 (詳細) 2回のクローズテストと TOEIC スコアとの相関係数  $r$

	クローズテスト 1回目 合計点
クローズテスト 2回目 合計点	Pearson's product-moment correlation data: x and y t=6.6486, df=294, p-value=1.438e-10 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.2581613 0.4567067 sample estimates: cor 0.3615256

表 8 (詳細) クローズテスト間の相関係数  $r$

	発音テスト 1回目 合計点
発音テスト 2回目 合計点	Pearson's product-moment correlation data: x and y t=13.0306, df=294, p-value < 2.2e-16 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.5274421 0.6726676 sample estimates: cor 0.6050637

表 9 (詳細) 第1回発音テストと第2回発音テストの相関係数  $r$

\*この論文は、2004年度愛知淑徳大学内外研修（長期国外研修）による研究成果の一部である。なお、分析データの提示方法について有益なコメントをいただいた村木恭子氏（名古屋大学大学院国際開発研究科）に、謝意を表したい。

### 注

- 1 現在、TOEIC は、年間7回一般公開テストが実施されている。このほかに、企業・学校・団体などの要請に応じて、随時 TOEIC を受験できる団体特別受験制度(IP: Institutional Program)がある。愛知淑徳大学で実施しているのは、この IP テストであり、本文中で TOEIC と言及したものは TOEIC IP テストを指す。
- 2 学内での最初の TOEFL 実施は 1994 年 2 月、TOEIC は 1997 年 10 月である。2006 年度は新入生対象の TOEIC (4 月) のほかに、受験料大学負担の TOEIC を 2 回、受験料学生負担の TOEIC を 2 回の全 5 回実施する。
- 3 全学で 1,421 名の学部生、大学院生、留学生別科生が受験した。
- 4 クローズテストは、問題作成者が意図的に抜き出す語を決めて空白を作る作為型クローズ(rational cloze)と、ある決まった語数ごとに規則的に空白を作るランダムクローズ(random cloze)の 2 種類がある（前者は selective deletion cloze、後者は fixed-ratio cloze と呼ばれる）。Alderson (2000)は、これら 2 つのテストは測定しているものが異なるとして、後者のみをクローズテストとし、前者は gap-filling test と呼ぶべきであると主張している。
- 5 表現文化専攻・多元文化専攻・環境文化専攻の入学定員（当時）は、各 90 名である。環境文化専攻は、2004 年 4 月の医療福祉学部の開設に伴い、2004 年度から学生の募集を停止した。
- 6 テストの実施に際しては、大野清幸先生、都築千絵先生、中川直志先生、水野江依子先生、榎田裕加先生（50 音順）のご理解とご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。
- 7 調査機器およびソフトウェアについての補足が必要であろう。マークシートの読み取りには、当初、OMR としては SR2300、OMR 用ソフトウェアとしては「SS くん Super for Windows」を予定していたが、使用予定の SR2300 にはボールペン対応センサが取り付けられていたため、マークシート「幅広カード 103」の青色部分を誤って、マークとして読みとってしまう不具合が生じた。したがって、OMR としては、すでに手元にあった SR410 を使用せざるを得なかった。さらに、RS232C ポートを備えた SR410 を USB シリアルケーブル経由で Windows マシンで使用することができなかつたため、Mac OS 9.2 環境で「SS くん (Macintosh 版)」を使用せざるを得なかった (Mac OS X のクラシック環境での「SS くん (Macintosh 版)」の起動は不可)。読み取り・集計に使用した iMac には USB ポートしか備えられていないが、シリアル-USB 変換器による使用が可能である (今回の研究に使用したのは USB ツインシリアルアダプタ USA-28X : Keypan 社)。ただし、「SS くん (Macintosh 版)」ならびに Macintosh 本体でのさまざまな設定が必要である。詳しくは、筆者に問い合わせたい。
- 8 調査に正確を期すために、マークシートの解答欄を間違つたと思われる者は調査の対象としなかつた。
- 9 散布図に示した R 二乗係数(R<sup>2</sup>)は、1 に近いほど、回帰直線が元のデータにあてはまっていることを表す。
- 10 田中・山際(1992: 188)、石村(1993: 35)、森・田中(2003: 38)など。
- 11 R Development Core Team (2006): R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. ISBN 3-900051-07-0, URL <http://www.R-project.org>.  
相関係数 r は、表計算ソフトウェア Excel の PEARSON 関数を使っても求めることができる。Excel の計算精度の問題と、EXCEL が備えている CORREL 関数と PEARSON 関数の関係については、以下の URL を参照のこと。  
<http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/Hanasi/StatTalk/11-2.html>  
なお、この論文で「R」によって算出した相関係数は、Microsoft Excel 2004 for Mac で CORREL 関数および PEARSON 関数を用いて算出した相関係数と一致することを確認している。
- 12 「R」での出力結果は以下の通りである。

	2001 年 4 月 TOEIC スコア
2002 年 2 月 TOEIC スコア	Pearson's product-moment correlation data: x and y t = 14.7391, df = 305, p-value < 2.2e-16 alternative hypothesis: true correlation is not equal to 0 95 percent confidence interval: 0.5745001 0.7059368 sample estimates: cor 0.6449631



## 参考文献

- 愛知淑徳大学全学英語教育運営委員会（編）（2006）『文部科学省 現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定プロジェクト 多文化共生を目指した発信型全学英語教育—モジュール化された体系的カリキュラム開発 ASMAP 2005 年度 自己点検報告書』, 愛知淑徳大学.
- 石村貞夫 (1993) 『すぐわかる統計解析』, 東京図書.
- 樗木勇作 (2004) 「TOEIC 学習への e-Learning 導入とその効果」, 『愛知淑徳大学論集 — 文学部・文学研究科篇』 29, 39-50, 愛知淑徳大学.
- 佐藤史郎 (1988) 『クローズテストと英語教育』, 南雲堂.
- 田中 敏, 山際勇一郎 (1992) 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法：方法の理解から論文の書き方まで』, 教育出版.
- 中郷 慶, 大野清幸 (2002) 「愛知淑徳大学文化創造学部における英語教育—TOEIC 導入によるカリキュラム考察」, 『文化創造学部論集』 2, 81-103, 愛知淑徳大学.
- 三浦省五 (監修) 前田啓朗, 山森光陽 (編著) (2004) 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究』, 大修館書店.
- 森 真, 田中ゆかり (2003) 『なっとくする統計』, 講談社.
- Alderson, C. (2000) *Assessing Reading*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Darnell, D. K. (1968) “The Development of an English Language Proficiency Test of Foreign Students Using a Clozentropy Procedure,” *ERIC ED*, 024-039.
- Stubbs, J. B. & R. Tucker (1974) “The Cloze Test as a Measure of English Proficiency,” *Modern English Journal* 58 (5), 239-241.
- Taylor, W. L. (1953) “‘Cloze Procedure’: A New Tool for Measuring Readability,” *Journalism Quarterly* 30, 415-433.